多様性を地域の力に！

北海道議会議員　民主・道民連合

ふちがみ綾子

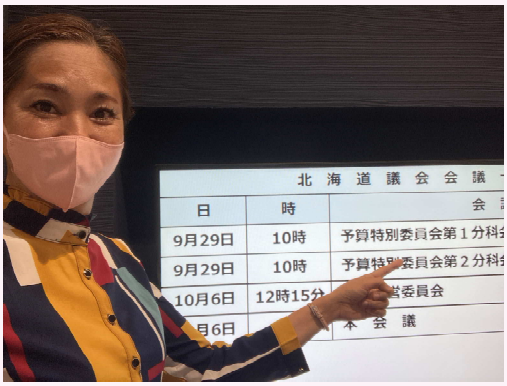
道政通信　Vol.17

2023 年秋号

ふちがみ綾子道政事務所

♡ はじめに

～「先生」でなく「○○さん」でよいのでは ～



「わたしたちはみんなと同じ、何も特別ではないから先生じゃなくふちがみさん、綾ちゃんでお願いします。」議員になったばかりのころから、初めましてのときや、懇親会の挨拶などの際にそのようにお伝えしてきました。私としては議員をもっと身近に感じていただきたいと思っていますし、その方が日頃考えている意見や困っていることなどを気軽に話していただけるのではないでしょうか。地域の中やよくお会いする方ではほとんど「ふちがみさん」「綾ちゃん」などと呼んでいただいており、たいへん嬉しく思っています。議会でも道職員の方などにそのようにお願いしましたが、やはりどうしてもさん付けでは呼びづらいようでした。あれから 4 年が経ち、そろそろこのような発言をしてもいいのではと思い、第 3 回定例会で議員の呼称について質問しました。

【質問】　普段、私たち議員は道職員の皆さまから「先生」と呼ばれています。そのような取り決めがあるのか、慣習なのか分かりませんが、その理由について聞いてみたところ、「公平性の観点から」「名前がパッとでてこない場合があり、先生という呼び方は便利」といった意見がありました。私は自分で「先生」だとはあまり認識しておらず、どちらかというと道職員の皆さまには対等に接していただける方がありがたいです。そこで、希望する議員については「○○さん」という呼び方でもよいのではないかと思います。道の考えを伺います。

【答弁】　道として決めるものではなく、個人と個人の関係性を踏まえ対応していくものと考えております。

ということでしたので、「よろしければ私のことはふちがみさんということでよろしくお願いします。」と申し上げました。質問の途中、議員席から「そりゃそうだ」といった共感する声があがりました。無理にお願いすることはできないのですが、少しずつ浸透していくといいなと思っています。

♡ さらに「楽しい」を目指した道政報告会

撮影／ウエムラスタジオ

10 月 12 日に第 2 回ふちがみ綾子道政報告会を行いました。今回もホテルユキタと Zoom 会場のハイブリッド方式、手話の同時通訳での開催、そして「楽しく伝える方がより伝わる」という考えから前回よりさらに楽しんでいただけるような仕掛けを多数用意してみなさまをお迎えしました。

- 入口にはさっぽろレインボープライドで使ったユニコーンのバルーンをディスプレイ
- 猫の顔が描かれたカラフルなバルーンがついたステッキをひとり 1 本ずつ持ってもらう（報告会で使う）
- Zoom 会場では待っている間のテロップを用意　等々

報告会本編では、議員は普段どんなことをしているのか、議会ではどんなことをしているのかをスライドで写真などを使って説明しました。その中で道政に関する 4 択クイズ、例えば年間の議会・委員会の日数はおよそ何日？道議会議員のうち女性議員は何人？などを出題しました。正解するごとにステッキのねこの首に鈴をつけていくというルールで、鈴が増えるたびにリアクションの際の音が大きくなります。Zoom 会場の方には鈴をつけたあやこだにゃん画像を送りました。そして、選んだ人が少ない回答があった場合は意見を聞いて大きいサイズの金の鈴をつけていただきました。これは、少数意見を大切にするという姿勢を示しています。出題の際には BGM や効果音を出し、楽しいを演出しました。

最後は、飲食事業者等感染防止対策補助金やスクールサポートスタッフの雇用継続、女性の農家さんからの農地へのトイレの設置要望など、預かった生の声を議会に届けてきた例を示し、「みなさんの声が私の最大の強みです。小さな声なんて政治に届かないとあきらめないでください。」というメッセージで締めくくりました。

多くの参加者から「楽しかった」「堅苦しくなかった」「政治を身近に感じられた」など感想をいただきました。やりたい放題にお付き合いいただいたスタッフ・関係者のみなさま、ご参加いただいたみなさま、参加できなくとも遠くから応援してくださったみなさまに心よりお礼申し上げます。

♡ 第３回定例会

第 3 回定例会では予算特別委員会第 1 分科会で 2 回委員長を務めました。今回取り上げた質問は次の通り。なお、環境生活部、総合政策部所管の質問は同僚議員に委託しました。

保健福祉部
- 新型コロナウイルス感染症等への対応について
- 電通北海道による過請求について
- 困難を抱える女性への支援について

環境生活部
- ヘイター対策について

総合政策部
- 新たな総合計画と地域づくりの方向性について（多様な人材の活躍について）
- 地域おこし協力隊について

総務部
- 道有財産の活用について
- 議員の呼称について
- 道職員の処遇について

～ 主な質問と答弁 ～

困難を抱える女性への支援について

【質問】　困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が令和 6 年 4 月 1 日より施行される。どのような支援調整会議の設置を進める？

【答弁】　審議会での議論や女性支援団体との協議を踏まえ、そのあり方や運営方法等を検討する。

【指摘】　婦人相談員に相談して、その後に支援センターに予約が必要で、相談時間も限定されている。相談をして受理会議を経て、一時保護されるか決められる。命からがら逃げだす当事者にとってあまりにもハードルが高い。調整会議で関係団体から意見を聞いて反映していただきたい。

多様な人材の活躍について

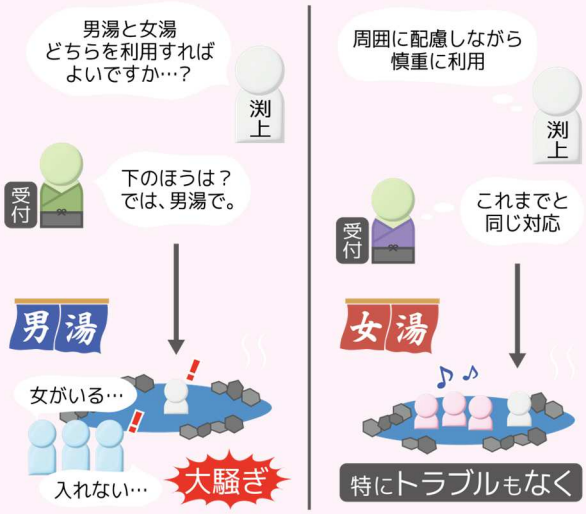
【質問】　生産年齢人口が活躍していく中で多様な人材が活躍することは重要な視点。総合計画にすべき。

【答弁】　新たな総合計画策定にあたりご意見も踏まえ具体的な検討を進める。

♡ トランスジェンダーに対するバッシング

前号でもお伝えしましたが、トランスジェンダーをバッシングするデマ情報、差別的、攻撃的な言論が一層激しさを増しています。中にはトランス女性と性犯罪者を結びつけるような誤解と不安・恐怖心を煽るものなども多く見受けられ、当事者を深く傷つけています。トランス女性が女性用の施設に入れるようになると性犯罪が増加するという意見がありますが、統計的に否定されています。本来取り締まるべきは性犯罪者であり、トランスジェンダーを排除しても何の解決にもなりません。

実際にはわたしたちはトラブルを避けるよう非常に慎重にトイレ等を選択しています。無理な線引きをすることで逆にトラブルを招いてしまいます。わたしは手術前に温泉施設を利用する際に、施設の方に確認をとったところ、男性側を利用するように言われてその通りにした結果、男性用の脱衣所の外で「中に女性がいる」と大騒ぎになりました。逆に女性側を利用してトラブルになったことは一度もありません。厚生労働省より「身体的特徴をもって判断するもの」との文書が発出されていますが、これはあくまで技術的指導であり、道からは改めて「トランスジェンダーを排除する意図ではない」「従前の取扱から変更するものではない」との通知が出されています。



女性の安心・安全とトランス女性が自認する性で生きることは本来対立するものでありません。感情的に対立するのではなく正しい情報に基づく冷静な対話により解決するものと考えています。

ふちがみ綾子プロフィール

1975 年佐賀県生まれ。1997 年富山大学卒業。1999 年北海道大学大学院修了。北海道大学低温科学研究所勤務。2000 年農林水産省北海道農業試験場勤務。2001 年ニューハーフショークラブららつ一勤務。2019 年北海道議会議員に初当選。現在 2 期目。
民主・道民連合　政策審議会筆頭副会長
所属委員会：総合政策委員会・産炭地振興・エネルギー調査特別委員会

♡ ふちがみ綾子事務所

〒065-0011
札幌市東区北 11 条東 8 丁目 1-3　高岡ビル 1 階
TEL: 011-733-6007　FAX: 011-733-6008
ふちがみ綾子公式ウェブサイト
http://fuchigamiayako.jp/

http://fuchigamiayako.jp/